鳥取短期大学研究紀要第50記念号(2004)

わが国の「形式譚」について
—稲田浩二・ほか『日本昔話通観』(同朋舎)を基に—

酒井董美(ただよし)

Tadayoshi SAKAI : Formula Tales in Japan—A Study based upon "Nihon Mukashibanashi Tsuukan" authored by Koji Inada et. al. (Dohosha)—

昔話を語っていると，聞き手が次々と新しい話を要求してくる．そろそろやめたいと思っても，聞き手がそれを承知しない．そのようなとき，語り手が話を中止するため，同じ語句を反復したり，意味のない内容を語ったりして，聞き手に「語り手はもう語ることをやめたいのだな」と，それとなく知らしめる．そのような種類の話型を「形式譚」と称する．本稿では，そのようなわが国の形式譚について考察したものである．

キーワード：形式譚　秀句譚　反復譚　果てなし話　昔話

1．はじめに

形式譚といえば，語り手が昔話をいくつか語り，そろそろ話を終えようとしても，聞き手がさらに話をせがむので，話を打ち切るためにこれを語ったり，時には聞き手をからかったり，おもしろがらせる目的で語られるものである．関敬吾氏は「なんらの思想もなく，ただ言葉の興味を中心にして語られる話[1)]」と定義している．

本稿では稲田浩二・他編『日本昔話通観[2)]』を基礎資料として，都道府県別各巻の「形式譚」を集め数量化して分析を試みたものである．ただし，北海道と沖縄については「形式譚」に相当する部分が見られなかったので，必然的に除外した形になっている．

つまり，北海道であるが，元来ここはアイヌ民族の地であった．したがって，神の物語であるユーカラは存在するが，昔話は元々なかった模様である．ユーカラは神の事績を述べるものであり，語り手に対して聞き手はその話を謹聴すべきであって，軽々に語りをやめる機能を主とする形式譚の育つ環境は生まれにくかった．

また，沖縄県であるが，ここの伝承文学の多くは伝説と世間話が主体であり，昔話は少なかった．稲田浩二氏によれば，「昔話が成熟した後，形式譚は生まれるものであろうから，それのあまり存在しない沖縄では，形式譚もまた発達していないのだろう」(談話) と推測しておられる．まさに的を射たご指摘であろう．

なお，『日本昔話通観』における「形式譚」の用語について触れておくと，各巻とも「形式譚」と表記されているが，まとめにあたる第28巻の「タイプ・インデックス」ではなぜか「形式話」と記され，各巻との統一が取られていない．しかし，両者は同じものであるので，あえてそれ以上の詮索はやめ，指摘するだけにとどめ，本稿では便宜上「形式譚」の用語に統一して述べることとする．

まず，その「タイプ・インデックス」では，以下のように話型が示されている．

1181　果なし話—落ちる木の葉

秋風が吹くと，かしの大木から実が一つポロンと落ちてコロッところび，川へチャボンと入り，ツーと流れる（くり返す）．Z11〕

1182　果なし話—出てくる蛇

大きな蛇が洞穴からのろのろ出てきて，木にのろのろ登る．今日ものろのろ，明日ものろのろ，あさっても（とつづく）．

1183　果なし話—烏と蛇

烏が大木の洞に向かって，ガア，と鳴くと，洞の中から蛇がにょろにょろのぞき，また，ガア，と鳴くとにょろにょろのぞき，（くり返す）．〔Z11. cf. A 2426, 2. cf. B 875. 1）

1184　果なし話—とびこむ蛙

蛙が千石船から一匹，海へギャーチャブリととびこみ，つぎがギャーチャブリととびこみ，（くり返し）．（Z11）

1185　果なし話—鼠の渡海

鼠の一族が海を渡ることになり，先頭の鼠の尾につぎの鼠が食いつき，その尾につぎの鼠が食いつき，（とつづく）．〔Z11〕

1186　果なし話—蟻の米運び

蟻が米倉の小さな穴から米粒をひと一つ，またつぎのがひと一つ（とつづく）．〔Z11〕

1187　果てなし話—鳴く蛙

蛙が田のこっちから，行こか行こか，と鳴くと，あちらから，ござらばござれ，と鳴き返す．するとまた，（くり返す）．〔Z11〕

1188　果なし話—根も葉も食われる

大根はよいもんだ，根も葉も食われる．（くり返す）．〔Z11〕

1189　長い話—天からふんどし

天から長いふんどしが落ちてきて，いくらたぐっても終わらない．〔Z12〕

1190　長い話—長崎からおこわ

長い長崎からおこわが来た．〔Z12〕

1191　短い話—爺でない婆だ

①婆に尾を踏まれた鼠が，ジイッ，と鳴くと，婆は，じいでない婆だ，と言う．

②爺に尾を踏まれた鼠が，バア，と鳴くと，爺は，ばあでない爺だ，と言う．〔Z12〕

1192　短い話—爺はじっと

大風が吹くと，爺はじいっとし，婆はばあっとたつ．〔Z12〕

1193　短い話—繻絆の尻からげ

のみの繻絆の尻からげ．〔Z12〕

1194　短い話—曲がった鳥

曲がった鳥が曲がった木にとまり，曲がった尻から曲がった糞をひり，曲がったゆげがたつ．〔Z12〕

1195　はなし話—歯なし

女の生首を拾うと歯なし．〔Z12〕

1196　はなし話—葉なし

大蕪（おおかぶら）が門から入らず，葉を取って葉なし．〔X12〕

1197　はなし話—鼻椎（はなしい）

樵拾いにいき，上を仰いでいると，椎の実が鼻に入って鼻椎．〔Z12〕

1198　はなし話—刃なし

侍が刀で切ろうとするが切れず，刀を見ると刃なし．〔Z12〕

1199　昔と話と謎

昔と話と謎が旅立ち，昔むつけて話はじけて謎は流れる．〔Z12, cf. F 1025〕

1200　放そうか

鳥をつかまえたが，放そうか放すまいか．「はなせ」．放したら逃げた．〔Z 12〕

1201　鬼の屁

おっかなくて，おかしくて，悲しい話は，鬼が屁をたれて死んだ．〔Z 12〕

1202　昔刀

刀をさげた人に，その刀は何刀だ，と問うと，昔刀だ．〔Z 12〕

1203　蟻と梨

あるところに蟻が這い，ないところに梨がなる．〔Z 12〕

1204　流れた瓜

爺は山へ柴刈りに，婆は川へ洗濯にいくと，川上から瓜が流れてくる．もう一つ流れてこい太郎にやる，もう一つ流れてこい次郎にやる．（くり返す）．〔Z 12〕

1205　半紙が四枚

爺は山へ柴刈りに，婆は川へ洗濯にいく．川上から流れてきた重箱に半紙が一枚，二枚，三枚，四枚．しまい．〔Z 12〕

1206　小さい話

けしの実をくり抜いて家を建て，本を読む人にとまったのみの金玉．〔Z 12〕

1207　蟻の目にどんぐり

蟻の目にどんぐりがはまり，針でいくら掘っても取れず，手杵で掘るとボンと出る．〔X 900, Z 10〕

1208　餅がふくれる

父親がいろりで餅を焼き，子供たちが寄ってくると，餅はどんどんふくれて……〈と子供たちを手で押しのける〉．〔Z 12〕

1209　太る蕪（かぶら）

まいた蕪に肥えをやると，一肥えごとにどんどん太り……〈と手を広げていろりの縁に割りこむ〉．〔Z 10〕

〈注〉昔語りの席で，語り手と聞き手の別なく，席に割り込むときに話す．

1210　蓑どん綿どん

蓑を着た人と綿を着た人とが旅立ち，雨が降りだすと，はじめは綿どんが元気で，ずぶ濡れになると，蓑どんが元気になる．〔Z 10〕

1211　鳥食い婆

①爺が，捕った小鳥の料理を婆に頼むと，婆は味見をしていてみな食べてしまう．〔W125〕

②婆が自分の陰部をそいで調理し，爺に食わせると，爺は，うまいがしわい，と言う．〔X 700〕

なお，各巻の形式譚を丹念に調べてみると，これらの中で次の３項目は含まれていなかった．「1197　はなし話―鼻椎（はなしい）」「1198　はなし話―刃なし」「1211　鳥食い婆」．これらは形式譚以外の「笑い話」の項目に収録されているもののようであるが，少数なので割愛し，ここでは統一を図るためにも，あくまで「形式譚」として掲載されているものに限って対象にしたことをご理解いただきたい．

２．形式譚の話型と語られる話の多寡

次には前で示された話型について，どれくらいの頻度で語られる傾向があるのかを，数量化して眺めてみたい．北海道と沖縄を除外し，青森県から鹿児島県までの「形式譚」を話型別に集計した．なお，集計の数値であるが，本書の代表話例にその後に出

ている類話の数値を加えたものである．

ただ，この中には分類しきれないものもあり，それは一応「新話型」としたり，また，本来他の口承文芸であったものが，形式譚めかして語られていたのを収録したと考えられるものもあり，それは「その他」として表の末尾に入れておいた．この〔表1〕だけは先にも述べたように，各巻の形式譚に含まれていなかった．「1197　はなし話―鼻椎（はなしい）」「1198　はなし話―刃なし」「1211　鳥食い婆」についても，項目の数字の順が飛ぶことになるのを避けるために入れておくが，これ以降の表からは実数が認められないのでカットしておいた．

〔表1〕「形式譚」分野別数（稲田浩二編『日本昔話通観』の「形式譚」をタイプ・インデックス分類別に集計した）

タイプ・インデックス分類項目	基本話型	崩れた形	類話	合計	備考
1181　果なし話―落ちる木の葉	134	2		136	
1182　果なし話―出てくる蛇	73	1		74	東北に多い
1183　果なし話―烏と蛇	27	2		29	
1184　果なし話―とびこむ蛙	45			45	
1185　果なし話―鼠の渡海	20			20	
1186　果なし話―蟻の米運び	11			11	
1187　果てなし話―鳴く蛙	5			5	秋田2岩手1宮城1高知1
1188　果なし話―根も葉も食われる	4			4	青森1岩手1岐阜2
1189　長い話―天からふんどし	423	3		426	
1190　長い話―長崎からおこわ	33	10	9	52	
1191　短い話―爺でない婆だ	44			44	鳥取6島根34岡山4
1192　短い話―爺はじっと	10	10		20	
1193　短い話―繻絆の尻からげ	18	4		22	岡山8［類話］岡山1京都2岐阜1
1194　短い話―曲がった鳥	30	1	98	129	
1195　はなし話―歯なし	8	4		12	宮城のみ［類話］群馬1埼玉1
1196　はなし話―葉なし	16			16	東北のみ
1197　はなし話―鼻椎（はなしい）	0			0	
1198　はなし話―刃なし	0			0	
1199　昔と話と謎	120			120	
1200　放そうか	39	11	1	51	
1201　鬼の屁	12	3		15	
1202　昔刀	6			6	秋田4岩手1山形1群馬1
1203　蟻と梨	6			6	群馬1栃木2山梨1京都1兵庫1
1204　流れた瓜	1			1	大分
1205　半紙が四枚	3			3	
1206　小さい話	10			10	京都2福井1愛媛1岡山1徳島1
1207　蟻の目にどんぐり	10			10	香川のみ
1208　餅がふくれる	1			1	京都

1209 太る蕪(かぶら)	1			1	京都
1210 蓑どん綿どん	1			1	鹿児島
1211 鳥食い婆	0			0	
新話型	8			8	
その他	44			44	
合　　計	1,163	51	108	1,322	

3．形式譚の分類

ところで，これまでの研究で形式譚を扱ったものには，田中瑩一氏の論考がある[3]．私の知る限りでは，初めて形式譚の分類を本格的に試みたものと思われ，なおかつ，納得するところも多い．ここではその分類を踏襲しながら，事例を『日本昔話通観』にとって進めていくことにしたい．

さきに私は形式譚について，「語り手が昔話をいくつか語り，そろそろ話を終えようとしても，聞き手がさらに話をせがむので，話を打ち切るためにこれを語ったり，時には聞き手をからかったり，面白がらせる目的で語られるものである．」という関敬吾氏の見解を示しておいたが，田中瑩一氏の分類を参考に『日本昔話通観』の話型をあてはめれば〔表2〕のようになる．

この田中氏の元の表の事例では，「戸の桟に上って出世」とか「鮎と鯛のけんか」「くねんぼうが九年わずらう」「猿が三匹尾が七つ」「春木半間」のよ

〔表2〕 田中瑩一氏の示された「形式譚分類表」（酒井一部加筆）

- 形式譚
  - 秀句譚
    - 牽強譚
      - 一般形式譚（結末句がつく）…長崎からおこわ・葉なし
      - 切上形式譚（結末句がつきにくい）…曲がった鳥・鬼の屁・蟻の目にどんぐり，ほか
    - 口合譚
      - 一般形式譚（結末句がつく）…蟻と梨・爺でない婆だ
      - 切上形式譚（結末句がつきにくい）…根も葉も食われる・歯なし・放そうか，ほか
    - 頭韻譚
      - 一般形式譚（結末句がつく）…爺はじっと
      - 切上形式譚（結末句がつきにくい）…昔と話と謎
    - 座の中に割り込む話（結末句はつかない）…餅がふくれる，太る蕪
    - その他（結末句はつかない）…
  - 反復譚
    - 動作（現象）の反復
      - 一個の動作（現象）の反復（結末句がつかない）…天から褌，ほか
      - 二個の動作（現象）の反復（結末句がつかない）…烏と蛇，鳴く蛙，ほか
      - 多数の動作（現象）の反復（結末句がつかない）…落ちる木の葉・鼠の渡海
    - 語り句の反復（結末句がつかない）…流れた瓜

※「反復譚」は，いずれも「切上形式譚」であり，「一般形式譚」は存在しない．

うに，『日本昔話通観』で形式譚に分類されていない話型も組み込まれているが，これは研究者にとって分類の仕方にずれがあることを示しているものであろう．しかし，田中氏の試案はこれまでわが国では形式譚を細かく分析して本格的な分類がなされていなかっただけに，この分類の方法に対して一石を投じたものと評価することができる．

ただ，実際にこの表に話型を組み込んで行くと，分類しきれない話も出てくるので，一部，私が加筆しておいた．一つは「座の中に割り込む話」である．満座の中に後から来たものが，この話をしてみなを引きつけ，さっと座の中に入り込んでしまうという話で，「餅がふくれる」や「太る蕪」がそれである．

さらにいずれの項目にも該当しない話も存在しているので「その他」として新しく項目を加えたものである．いずれも語りのおもしろさを示しているので，それらは「反復譚」よりも「秀句譚」に属させる方が無難なのでそうしておいたが，「その他」の中には，必ずしも「秀句譚」に当てはまらないものもある．しかし，それ以上区分すると複雑になりすぎるので，とりあえずこのようにしたものもある．

4．形式譚の例

さて，形式譚はこのようにしてみると，大きく秀句譚と反復譚に分かれる．念のために項目ごとに事例を1話ずつあげておく．

① **秀句譚**（気の利いた言葉遣いの句）・**牽強譚**（意味のこじつけにに興味の中心があるもの）・一般形式譚

長い話―長崎からおこわ

兵庫県美方郡村岡町川上・女

長え，長え話したらあか．長え，なげえ長崎へ，おこわ飯持って行ったとや．（美方・村岡　p. 409）

② **秀句譚**・**牽強譚**・切り上げ形式譚

しまい話―おっかなくて臭くて甘（うま）い話（原題・三つの話）

青森県西津軽郡稲垣村千年・男

怖っかなくて臭くて甘（うま）い話しらへがな．鬼ァ便所で饅頭食ってらど．鬼ァおっかないし，便所ァ臭いし，まんじゅうァうまいべ．（青森集成下　p. 542）

③ **秀句譚**・**口合譚**（言葉のシャレに興味の中心のあるもの）・一般形式譚

短い話―なしとあり

京都府与謝郡伊坂町本庄上・男

無（に）ゃ所（とこ）に梨が実（な）って，ある所に蟻が這（は）うたとか言うて．（丹後伊根　p. 342）

④ **秀句譚**・**口合譚**・切り上げ形式譚

しまい話―はなすと落ちる（原題・咄家，梗概）

宮城県仙台市宮城野・女

男が橋を渡っていたら，殿様の行列がやって来たので，欄干にぶらさがって隠れる．先払いに見つかって，「何者だ」ととがめられ，「咄家だ」と出まかせを言う．殿様が「ひとつ話させてみよ」と家来に言いつけたら，「放すと川に落ちてしまう」と言った．（むがす　p. 303）

⑤ **秀句譚**・**頭韻譚**（頭韻を用いたところに表現のおもしろさがあるもの）・一般形式譚

短い話―爺でねえ婆だ（原題・短い話）

鳥取県東伯郡赤碕町出上・男

そえから，今度えにゃあ鼠の話．その，お婆さんが便所に行ってなあ，そないしたら，鼠がちょこちょこって出て来て，鼠の尻尾（しりっぽ）踏んだって，便所から．そえから，「ジイジイジイジイッ」，婆さんが，鼠の尻尾を踏んだに．「何（なん）だっ，爺（じじ）でねえ婆（ばば）だっ」．

今度目は，爺さんが，今度にゃあ，便所へ行ったら，そうか，けえ話だあ，「バッバッバッバッバッバアン」って言っただで，「婆あでねえっ，爺(じじ)いだわっ」って言ったていや．それごんぼれだわ．（大山北麓　p. 698）

⑥　**秀句譚・頭韻譚**・切り上げ形式譚

しまい話―むかしと話と謎(なぞ)（原題・三人旅，梗概）

岩手県遠野市（旧上閉伊郡土淵村）

むかしと話と謎(なんぞ)が伊勢参りにいく．途中の大川の一本橋のまん中で大風が吹き，むかしはむくれて，話ははじくれて，なんぞは流れてしまった．（聴耳 p. 299）

⑦　**秀句譚・座の中に割り込む話**（聞き手の注意を向けさせて満座の中に席を占めようとする機能を持たせた話）

割りこみ話―かぶら（原題・かぶら）

京都府船井郡和知町西河内・女

かぶらの種子をまいてねえ，一遍肥(こえ)を掛けたらザアッと大きゅうなり，またもう一遍掛けたら，ザアッと大きゅうなり，もう三遍掛けたら，ザアーッと大きゅうなり……．（丹波和知　p. 284）

注　いろりのそばなどに人がいっぱいで入れないとき，この話をして，手をだんだん広げて人を倒し，その間に入りこむ．

⑧　**秀句譚・その他**（特にこれまでの分類の中に収めきれないもの）

〔表 3〕『日本昔話通観』の形式譚

			一般形式譚		切り上げ形式譚	
秀句譚	牽強譚 (255話)		1190　長い話―長崎からおこわ　52話 1196　はなし話―葉なし　16　(68話)	(結末句がつく)	1193　短い話―繻絆の尻からげ　22話 1194　短い話―曲がった鳥　129 1201　鬼の屁　15 1206　小さい話　10 1207　蟻の目にどんぐり　10 1210　蓑どん綿どん　1　(187)	(結末句がつきにくい)
	口合譚 (120)		1203　蟻と梨　6 1191　短い話―爺でない婆だ　44　(50)		1188　果なし話―根も葉も食われる　4 1195　はなし話―歯なし　12 1200　放そうか　1202　昔刀　51 1205　半紙が四枚　3　(70)	
	頭韻譚 (140)		1192　短い話―爺はじっと　20		1199　昔と話と謎　120	
	座の中に割り込む話 (2)		1208　餅がふくれる　1 1209　太る蕪(かぶら)　1　(2)			
	その他 (52)		なさけない【群馬・京都・埼玉】 ぼた餅好きの婆【新潟】ほか			
反復	動作（現象）の反復	一個の動作（現象）の反復 (500)			1182　果なし話―出てくる蛇　74 1189　長い話―天からふんどし　426	(結末句がつかない)
		二個の動作（現象）の反復 (170)			1183　果なし話―烏と蛇　29 1187　果てなし話―鳴く蛙　5 1181　果なし話―落ちる木の葉　136	
		多数の動作（現象）の反復 (76)			1184　果なし話―とびこむ蛙　45 1185　果なし話―鼠の渡海　20 11861186　果なし話―蟻の米運び　11	
	語り句の反復 (1)				1204　流れた瓜　1	

しまい話―なさけない（梗概）

群馬県利根郡昭和村（旧糸之瀬村糸井）・女

酒の好きな爺と菜っぱの好きな婆がおり，おたがいが好きなものを買いにいく．婆が家にもどると爺がおり，「婆さん，菜はあったけえ」と聞く．婆は「菜はねえ，お爺さん，酒はあったけえ」と聞く．菜も酒もないので，なさけねぇ話になった．（利根 p. 149）

⑨ **反復譚**（行為や現象の反復を語るもの）・動作（現象）の反復・一個の動作（現象）の反復

果てなし話―山を巻く蛇（原題・今もねろねろ明日もねろねろ，梗概）

岩手県和賀郡和賀町山口西川原田・女

大きな山に大きな蛇が住んでいて，山を巻くに，今日もねろねろ，あしたもねろねろ……毎日，蛇，山巻いでらけどや．（わが2　p. 43）

⑩ 反復譚（行為や現象の反復を語るもの）・動作（現象）の反復・二個の動作（現象）の反復

果てなし話―蛇と蛙の羽黒参り（原題・羽黒参り，梗概）

山形県東田川郡余目町栄

蛇と蛙とが羽黒参りする．蛇ゾロゾロ，蛙ビクタラビクタラと行く．蛇ゾロゾロ，蛙ビクタラビクタラと行く……．（栄　p. 938）

⑪ **反復譚**（行為や現象の反復を語るもの）・動作（現象）の反復・多数の動作（現象）の反復

果てなし語―とびこむ蛙（原題・果なし話―蛙）

広島県比婆郡高野町南・男

昔々，古い池があったげな．そこへ蛙がチャポンと一匹跳びこんだ．また蛙がチャポンと一匹跳びこんだげな．また蛙がチャポンと一匹跳びこんだげな．そうやってとうとう夜が明けたげな．（高野郷 p. 370）

⑫ **語り句の反復**（語りの一句を反復するもの）

果てなし話―瓜流れ（梗概）

大分県西国東郡香々地町夷・男

爺は山へ柴とりに婆は川に洗濯に行くと，上手から瓜がひょかんひょかん流れてくる．「ま一つ流れちこい，（人名）にやる．ま一つ流れちこい（人名）にやる．ま一つ……」．しまいのこんにゃく揚げ豆腐．（国東半島下島　p. 435）

続いて，『日本昔話通観』の「形式譚」の話型を当てはめてみる．〔表3〕がそれである．ここでは〔表1〕の項目で挙げた基本話型で表すこととする．「崩れた形」や「類話」を省いたところで大勢にはさほど影響があるとは思われず，むしろ基本話型だけで考えた方がすっきりすると思うからである．

続いて，統計的に処理して，多く語られる話型を多い順から眺めてみる．〔表4〕がそれである．

概観していえることは，「天からふんどし」が一番多く32％をしめ，二位の「落ちる木の葉」が10％となり両者で42％になる．これらは共に「動作の反復」に分類されており，そこから「動作の反復」の話型を好む傾向がうかがえる．

次に項目別に多く語られた話型について挙げておく．参考までに話型名を後に記しておく．

先の個別の話型による傾向は，分類項目別で眺めた場合さらにはっきりする．一番多いのが「反復譚・動作（現象）の反復・一個の動作」（189　長い話―天からふんどし，1182　果なし話―出てくる蛇）が500話で38％になり，二位の「秀句譚・牽強譚・切上形式譚」（1194　短い話―曲がった鳥　1193　短い話―繻絆の尻からげ他）が187話で14％と大きく離されている．そして3位と5位には再び〔反復譚〕が入っているところから，人々は気の利いた秀句譚よりもくり返しの多い話を使って，昔話を要求する聞き手を撃退しようとする傾向が強いといえ

〔表4〕多く語られる話型（『日本昔話通観』）

順	話数	話型名	分類表の項目名
1	426	1189 長い話―天からふんどし	反復譚　動作（現象）の反復　一個の動作
2	136	1181 果なし話―落ちる木の葉	反復譚　動作（現象）の反復　多数の動作
3	129	1194 短い話―曲がった鳥	秀句譚　牽強譚　切上形式譚
4	120	1199 昔と話と謎	秀句譚　頭韻譚　切上形式譚
5	74	1182 果なし話―出てくる蛇	反復譚　動作（現象）の反復　一個の動作
6	52	1190 長い話―長崎からおこわ	秀句譚　牽強譚　一般形式譚
	52	その他〔なさけない・群馬〕ほか	秀句譚　座の中に割り込む話　一般形式譚
8	51	1200 放そうか1202昔刀	秀句譚　口合譚　切上形式譚
9	45	1184 果なし話―とびこむ蛙	反復譚　動作（現象）の反復　多数の動作
10	44	1191 短い話―爺でない婆だ	秀句譚　口合譚　一般形式譚
11	29	1183 果なし話―烏と蛇	反復譚　動作（現象）の反復　二個の動作
12	22	1193 短い話―繻絆の尻からげ	秀句譚　牽強譚　切上形式譚
13	20	1192 短い話―爺はじっと	秀句譚　頭韻譚　一般形式譚
	20	1185 果なし話―鼠の渡海	反復譚　動作（現象）の反復　多数の動作
15	16	1196 はなし話―葉なし	秀句譚　牽強譚　一般形式譚
16	15	1201 鬼の屁	秀句譚　牽強譚　切上形式譚
17	12	1195 はなし話―歯なし	秀句譚　口合譚　切上形式譚
18	11	1186 果なし話―蟻の米運び	反復譚　動作（現象）の反復　多数の動作
19	10	1206 小さい話	秀句譚　牽強譚　切上形式譚
	10	1207 蟻の目にどんぐり	秀句譚　牽強譚　切上形式譚
21	6	1203 蟻と梨	秀句譚　口合譚　一般形式譚
22	5	1187 果てなし話―鳴く蛙	反復譚　動作（現象）の反復　二個の動作
23	4	1188 果なし話―根も葉も食われる	秀句譚　口合譚　切上形式譚
24	3	1205 半紙が四枚	秀句譚　口合譚　切上形式譚
25	1	1210 蓑どん綿どん	秀句譚　牽強譚　切上形式譚
	1	1204 流れた瓜	反復譚　語り句の反復
	1	1208 餅がふくれる	秀句譚　座の中に割り込む話　一般形式譚
	1	1209 太る蕪（かぶら）	秀句譚　座の中に割り込む話　一般形式譚
計	1,316		

※「反復譚」は，いずれも「切上形式譚」であり，「一般形式譚」は存在しない．

る．

5．形式譚に登場する動植物

これについて概略しておく．植物から述べれば，「木の実落ち」で出てくる実は栃，杉の実，栗，クルミ，柿，ドングリ，銀杏，椿，梨，樫，椎，山椒などである．

続いて動物であるが，「果なし話」で単独で現れるのは，蛙，ネズミ，アリなどが多い．また，ペアで出てくるものとしては，蛇と蛙が一番多く，カラスと蛇，蚊と虻などが代表的といえそうである．

6．おわりに

なにしろ，1,300あまりの形式譚を概観するのであるから，細かく見ていけばきりがない．そこで私はできる限り大局的な立場で考えようと，『日本昔話通観』を基礎資料として集計を試み，分類を中心に感じたところを述べておいたつもりである．

ストーリーテーリング活動をなさっている筒井悦子氏（岡山市）は，いろいろ語りをする機会がある

〔表5〕多く語られる分類項目（『日本昔話通観』）

順	話数	分類表の項目名	話型名
1	500	反復譚　動作（現象）の反復　一個の動作	1189　長い話―天からふんどし 1182　果なし話―出てくる蛇
2	187	秀句譚　牽強譚　切上形式譚	1194　短い話―曲がった鳥 1193　短い話―繻絆の尻からげ他
3	170	反復譚　動作（現象）の反復　二個の動作	1183　果なし話―烏と蛇 1187　果てなし話―鳴く蛙
4	120	秀句譚　頭韻譚　切上形式譚	1199　昔と話と謎
5	76	反復譚　動作（現象）の反復　多数の動作	1184　果なし話―とびこむ蛙
6	70	秀句譚　口合譚　切上形式譚	1200　放そうか　1202　昔刀
7	68	秀句譚　牽強譚　一般形式譚	1196　はなし話―葉なし
8	50	秀句譚　口合譚　一般形式譚	1191　短い話―爺でない婆だ
9	44	その他【分類から漏れた話型】（酒井認定分）	【山形県】風が吹くと
10	20	秀句譚　頭韻譚　一般形式譚	1192　短い話―爺はじっと
11	8	新話型【分類から漏れた話型】（酒井認定分）	【秋田県】渡し守の手柄
12	2	【分類から漏れた話型】	1208　餅がふくれる　1209　太る蕪（かぶら）
13	1	反復譚　語り句の反復	1204　流れた瓜
計	1,316		

※「反復譚」は，いずれも「切上形式譚」であり，「一般形式譚」は存在しない．

けれど，多くの語り手は形式譚についてはいたって無関心で，語ろうとすることはまずないが，しかし，けっこうおもしろみがあり，聞いて楽しいはずだ．このことに着目して語ってみるのもよいのではなかろうか，という意見をお持ちである．また，氏は子供時分に仲間たちの間で，昔話の形式譚とは知らず，何気なく「高いところには鷹がおり，低いところにはヒキがいた」「昔は剥けた話は禿げた」など言って興じた思い出がある，と話しておられたが，そういえば同様の経験を私も子供時代にしたことがあった．

「形式譚」の効能について，ここらで今少し関心を持つて考えるのも大事なことなのではなかろうか．

注

1）関　敬吾『日本の昔ばなしⅢ』（岩波文庫）岩波書店　1957年（昭和32）p. 241

2）稲田浩二・ほか『日本昔話通観』（全28巻のほか研究編2巻からなる）同朋舎　最終巻　1998年（平成10）

3）田中瑩一　わが国における「形式譚」の分類について―福田　晃編『昔話の形態』日本昔話研究集成4―名著出版　1984年（昭和59）p. 154～167